2026年度 第7回（12月）北辰テスト対策 予想問題

国語（制限時間 50分・100点満点）

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

中学三年生の拓海（たくみ）は、野球部を引退してから、進路希望調査票の第一希望の欄を空白のまま持ち歩いている。提出の期限は明日。放課後、拓海は担任の山口先生に呼ばれ、だれもいない教室で向かい合って座った。

先生は、拓海の机に置かれた調査票を、何も言わずに見つめていた。窓の外から、野球部の後輩たちのかけ声が聞こえてくる。①拓海は、そのかけ声から逃げるように、目をそらした。

「まだ、決まらないか。」

「……はい。野球しかやってこなかったので、ほかに何がしたいのか、わからないんです。」

言ってしまってから、拓海は、自分の声が思ったより情けなく響いたことに気づいて、うつむいた。

先生は、ふっと笑った。

「野球しかやってこなかった、か。私には、そうは見えなかったけどな。去年の秋、おまえは、けが人の出たチームのために、全員の練習メニューを作り直しただろう。あのとき、おまえは、ずいぶん楽しそうだった。」

拓海は、顔を上げた。②そんなことを、先生が覚えていたとは思わなかった。胸の奥が少しあたたかくなった。

「決めることがゴールじゃない。何が好きで、何が得意か、その材料を探すのが、今のおまえの仕事だよ。」

先生は、引き出しから一枚のパンフレットを取り出して、机の上にすべらせた。表紙には、「人の体を支える仕事」と書かれている。

「これが正解だと言っているんじゃない。ただ、選手として続けるだけが、野球との関わり方じゃないかもしれない、というだけの話だ。」

拓海は、パンフレットを手に取らなかった。けれど、③表紙の文字から、なかなか目を離すことができなかった。

帰り道、校門の外で、拓海は足を止めた。グラウンドでは、後輩たちが、まだ白いボールを追っている。パンフレットは、結局、かばんに入れて持ってきた。

調査票を出し、鉛筆を握った。迷って、迷って、やがて、第一希望の欄に、小さな字で一つの学校名を書いた。パンフレットの学校だった。

④消しゴムに手をのばしかけて、やめた。薄い鉛筆の字は、夕日を受けて、少しだけ濃く見えた。

（注）進路希望調査票（しんろきぼうちょうさひょう）……卒業後に進みたい学校や仕事を、学校に伝えるための用紙。　メニュー……ここでは、練習の内容や順序を書き出したもの。

問1 ①「拓海は、そのかけ声から逃げるように、目をそらした」とありますが、このときの拓海の様子を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア野球を離れて進路も決められない自分を意識し、後輩たちの姿をまっすぐ見られなくなっている様子。

イ後輩たちの練習ぶりに不満を覚え、見ていられなくなって、いらだっている様子。

ウ先生にしかられるのではないかとおびえ、窓の外に助けを求めようとしている様子。

エ後輩たちの声がうるさくて、先生の話に集中できず、腹を立てている様子。

問2 ②「そんなことを、先生が覚えていたとは思わなかった」とありますが、このときの拓海の気持ちを説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア自分のしたことを先生が見ていてくれたことに驚き、うれしさと、少しの照れくささを感じている。

イ先生に見られていたことが不快で、これ以上話をしたくないと感じている。

ウ先生が自分と別の人を取りちがえていると思い、反発を感じている。

エほめられたことで気が大きくなり、進路はすぐに決められると感じている。

問3 先生は「決めることがゴールじゃない。何が好きで、何が得意か、その材料を探すのが、今のおまえの仕事だよ。」と言いました。先生がそのように言ったのはなぜですか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、得意、材料の二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（6点）

問4 ③「表紙の文字から、なかなか目を離すことができなかった」とありますが、このときの拓海の気持ちを説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア選手としてでなくても野球に関われると知り、自分の将来について、これまでとちがう見方で考え始めている。

イ表紙の字が小さくて読めず、何が書いてあるのかをはっきりさせたいと思っている。

ウ先生に進路を決められたように感じ、断る言葉を探している。

エ選手になれなかった悔しさがこみ上げ、何も考えられなくなっている。

問5 ④「消しゴムに手をのばしかけて、やめた。」で始まる、本文の結びの二つの文には、どのような効果がありますか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア消しゴムを使わず、薄い字が濃く見えたと描くことで、迷いは残りながらも、自分で選んだ道を進もうとする拓海の思いが固まったことを印象づけている。

イ消しゴムに手をのばしたと描くことで、拓海が書いた学校名をすでに後悔していることを示している。

ウ夕日の色を描くことで、一日の終わりのさびしさだけを強調し、拓海が孤独であることを伝えている。

エ字が薄いことをくり返し描くことで、拓海が結局、進路を決められなかったことを示している。

問6 本文の表現や構成について述べた文として適切でないものを、次のア～オの中からすべて選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア「窓の外から、野球部の後輩たちのかけ声が聞こえてくる。」と、音の描写を入れることで、拓海がもう部活動に加わっていないことを印象づけている。

イ先生の「決めることがゴールじゃない。」ということばは、拓海に早く進路を決めさせようとする先生の気持ちを表している。

ウ先生が去年の秋の拓海のようすを覚えていることから、先生が拓海を見守ってきたことが読み取れる。

エパンフレットの「人の体を支える仕事」という文字は、拓海が野球との新しい関わり方を考えるきっかけとして描かれている。

オ結びでは、進路についての拓海の悩みがすっかり消えた様子が描かれている。

2

問1 ⑴ 次の――部の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に改めなさい。（各2点）

劇薬の取り扱いには、細心の注意が必要だ。（読み）

問1 ⑵（各2点） 規則正しい生活を励行する。（読み）

問1 ⑶（各2点） 学級新聞をソウカンして、今年で十年になる。（書き）

問1 ⑷（各2点） 長年のコウロウをたたえ、記念品が贈られた。（書き）

問2 次のア～エの文の――部の文節のうち、直前の文節と補助の関係になっているものを一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア駅の前に新しい書店がある。

イ母が毎朝弁当を作ってくれる。

ウ兄は大きな荷物を持つ。

エ妹が私にお菓子をくれる。

問3 次のア～エの文の――部の動詞のうち、活用形が連体形であるものを一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア弟は毎日、庭の花に水をやる。
イ窓を開けて空気を入れかえる。
ウ雨の降る日は家で読書をする。
エ明日は早く起きない。

問4 次のア～エの文の――部の語のうち、品詞が副詞であるものを一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア湖は静かに広がっている。
イとてもおいしいりんごだ。
ウあらゆる方法を試した。
エおだやかな日が続く。

問5 次の場面にあてはまることわざとして最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ひどい風邪で寝こんだとき、「もう夜ふかしはしない」と誓った健太さんは、治って数日たつと、また毎晩おそくまで起きるようになった。

アのど元過ぎれば熱さを忘れる
イ石橋をたたいて渡る
ウ転ばぬ先の杖
エ急がば回れ

問6 ことわざ「〔　Ⅰ　〕を聞いて〔　Ⅱ　〕を知る」は、物事の一部を聞いただけで、全体を理解できるほど賢いことを表します。〔　Ⅰ　〕、〔　Ⅱ　〕にあてはまる数を、漢数字でそれぞれ書きなさい。（3点）

問7 次の文の――部の慣用句の意味として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

遅刻の原因を作った本人が、先生に注意されても涼しい顔をしている。

ア自分に関係があることなのに、まるで関係がないかのように平然としている様子。
イ疲れた様子を見せず、元気に動き回っている様子。
ウうれしさがあふれ、顔がにこやかに輝いている様子。
エ暑さに負けず、さわやかな表情でいる様子。

問8 H中学校の生徒会では、地域の方を招く「感謝の会」の案内状について話し合っています。次の【話し合いの様子】を読み、〔　Ⅰ　〕にあてはまる司会の発言として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（2点）

【話し合いの様子】

司会「案内状に書く文面を考えます。気をつけたい点を出してください。」

田中「地域の方にお読みいただくものなので、敬語を正しく使いたいです。」

山本「ただ、丁寧にしすぎて文が長くなると、読みにくくなりませんか。」

司会「〔　Ⅰ　〕では、敬語は正しく使いつつ、一文を短くして、用件が先に伝わる書き方にしましょう。」

ア山本さんの意見は、敬語を使わないという意見ですね。

イ敬語は正しさが大切なので、文の長さは気にしなくてよいということですね。

ウ敬語の正しさと、読みやすさの両方が大切だという意見が出ました。

エ田中さんの意見は取り上げず、山本さんの意見だけで進めましょう。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

町の祭りは、毎年同じ日に、同じように行われているように見える。①しかし、その「同じ」は、何も変わっていないという意味ではない。担い手は入れかわり、道具は新しくなり、見物に訪れる人の顔ぶれも変わっていく。それでも、人々は、今年の祭りを去年と同じ祭りだと感じる。

なぜそう感じられるのか。それは、祭りの「型」が受け継がれているからである。神輿をかつぐ順路、かけ声の調子、始まりの合図。こうした型さえ守られていれば、細かいところが変わっても、祭りは祭りであり続ける。②型は、祭りの外側を固めているように見えて、実は、人々が祭りを「同じもの」として思い出すための手がかりになっているのだ。

一方で、型を守ることだけに力を注ぐと、祭りは次第に息苦しくなる。たとえば、担い手が足りなくなった町で、昔どおりの人数にこだわれば、祭りそのものが続けられなくなる。そこで、神輿をかつぐ人数を減らし、台車にのせて運ぶようにした町があるとしよう。かけ声も順路も始まりの合図も残っているので、人々はそれを祭りだと感じ続ける。③型の一部を変えたことによって、かえって祭りが続いたのである。

つまり、伝統とは、変えずに守ることだけではなく、何を残し、何を変えるかを選び続けることでもある。そのとき大切なのは、④「なぜこの型があるのか」を、世代を超えて話し合うことだ。理由を知らないまま守られる型は、いつか重荷になる。理由を知って選ばれた型は、たとえ形を変えても、次の世代の誇りになる。

伝統を受け継ぐとは、過去をそのまま運ぶことではない。⑤今の自分たちの手で、過去と未来をつなぎなおすことである。祭りが毎年「同じ」に見えるのは、そのつなぎなおしが、毎年行われているからなのだ。

（注）神輿（みこし）……祭りのときに、神様をのせて町を練り歩く、かついで運ぶ乗り物。　担い手（にない手）……ある仕事や行事を、中心になって引き受ける人。

問1 ①「しかし、その『同じ』は、何も変わっていないという意味ではない」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア担い手や道具などは変わっていても、人々は今年の祭りを去年と同じ祭りだと感じているということ。

イ祭りを行う日が、毎年少しずつ変わっているということ。

ウ祭りが毎年、まったく同じ内容で行われているということ。

エ見物に訪れる人が増え、祭りが年々大きくなっているということ。

問2 ②「型は、祭りの外側を固めているように見えて、実は、人々が祭りを『同じもの』として思い出すための手がかりになっている」とありますが、本文で「型」の例として挙げられているものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア神輿をかつぐ順路や、かけ声の調子、始まりの合図。

イ祭りの日に売られる屋台の食べ物の種類。

ウ祭りに参加する人の年齢や人数。

エ祭りに必要な費用の集め方。

問3 ③「型の一部を変えたことによって、かえって祭りが続いた」とありますが、筆者は、型の一部を変えたことでかえって祭りが続いたのはなぜだと考えていますか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、担い手、型の二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（6点）

問4 ④「『なぜこの型があるのか』を、世代を超えて話し合うこと」とありますが、これにあたる行動として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア町内会の集まりで、年配の人が、神輿のかけ声の由来を若い人に話し、そのうえで、今年のかけ声をどうするかをみんなで決める。

イ先に決められたやり方だから、理由は聞かずに、そのまま守ることにする。

ウ理由がよくわからない型は、すべてやめてしまうことにする。

エ若い世代だけで集まり、祭りのやり方を決めてしまう。

問5 本文の構成や表現について述べた文として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア冒頭で、身近な町の祭りの例を挙げ、読者を話題に引き入れている。

イ「たとえば」を用いて、担い手が足りなくなった町を想定し、主張を具体的に示している。

ウ祭りの起源を、古い文書の引用によって詳しく説明している。

エ最終段落で、本文の主張をまとめ、冒頭の「同じ」に見える祭りの話に結びつけている。

問6 本文全体の内容に合う筆者の考えとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア伝統は、何を残し何を変えるかを、理由を知ったうえで選び続けることで受け継がれ、過去と未来をつなぎなおすことになる。

イ伝統を守るためには、型を一つも変えずに、昔のままの形で続けるべきだ。

ウ担い手が足りない町では、祭りを続ける意味がないので、やめるべきだ。

エ祭りの型には意味がないので、時代に合わせてすべて新しくするべきだ。

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（カッコ内は口語訳です。口語訳をつけていない部分もあります。）（16点）

昔、ある男の家、屋根漏りて、雨の降るたびに難儀しけり。妻、「屋根を直したまへ。」と言ひければ、（昔、ある男の家は、屋根が漏れて、雨が降るたびに苦労していた。妻が、「屋根をお直しください。」と言ったところ、）

男、「雨の降る日は、①濡れて登れば危うし。②晴れたる日は、漏らねば直すに及ばず。」と言ひて、年を過ぐしけり。

ある夜、大雨降りて、家の内、水浸しになりぬ。（ある夜、大雨が降って、家の中が水浸しになった。）男、器どもを並べ、「かく漏るとは知らざりき。」と嘆きければ、妻、笑ひて、「③知りながら直さざりしは、誰ぞ。」と言ひけり。

隣の翁、これを聞きて、「今日のことは今日なすべし。④晴れの間にこそ、備へはすべけれ。」と言ひけり。

（注）難儀（なんぎ）……苦労すること。つらく困ること。　器（うつわ）……ここでは、雨水を受けるための入れ物。　翁（おきな）……年をとった男の人。

問1 ①「濡れて登れば危うし」とありますが、これはどういう意味ですか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア雨にぬれた屋根に登ると、危険だ。

イ雨にぬれたまま屋根に登ると、気持ちがよい。

ウ雨にぬれた屋根を直すのは、時間がかかる。

エ雨にぬれた屋根は、見た目が美しい。

問2 ②「晴れたる日は、漏らねば直すに及ばず」とありますが、この男の言い分には、どのようなおかしさがありますか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア雨の日は危ないから、晴れの日は漏らないからと、どちらの日にも直さない理由をつけて、いつまでも直せないでいる点。

イ屋根を直すお金がないのに、自分で直すと言い張っている点。

ウ妻に言われると、すぐに屋根を直しはじめてしまう点。

エ雨の日も晴れの日も、屋根に登るのが好きでたまらない点。

問３ ③「知りながら直さざりしは、誰ぞ」とありますが、このときの妻の気持ちとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（４点）

ア雨漏りを知りながら直さなかった夫自身に、あきれて、皮肉をこめてとがめる気持ち。

イ雨漏りで苦労している夫を気の毒に思い、なぐさめる気持ち。

ウ屋根が漏れることを知らなかった自分を恥ずかしく思う気持ち。

エ夫の上手な言い訳に感心して、ほめる気持ち。

問４ ④「晴れの間にこそ、備へはすべけれ」とありますが、翁は、屋根の修理のような備えを、どのようなときにすべきだと言っていますか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、現代語で十字以上、二十字以内で書きなさい。（４点）

（以上で問題は終わりです。）